

## 出芽を揃えるために

は種作業が始められましたが、気象庁の予報では、今後1週間は日照少ないようです。

日照不足の場合、出芽の揃いが悪くなりがちです。

下記のうち、取り組み可能な技術を取り入れて出芽の揃いをより良いものにしましょう。

① 箱設置前に十分にかん水する。	置床作土全体を暖かくして、保温します。
② 箱設置後に温水をかん水する。	可能であれば、少しでも温かい水をかん水する事で地温の低下を防ぎます。
③ 保温資材を外すタイミング	<p>は種前の地温が十分であれば、外気温に関係なく、4～5日目には出芽が始まります。</p> <p>ハウス全体で、芽が土を持ち上げ上げてきたら、十分な日照が見込める日の朝早くから、たっぷりかん水して夕方に保温資材で被覆します。</p> <p>この時期は天気の変化が激しいので、雲行きがあやしくなったら<b>保温資材</b>をかけられる準備が必要です。</p>
③ 毎日、太陽がでない (日照が少ない。 (平成25年のような天候の場合)	<p>箱が乾いた場合のみ、箱土を湿らせる程度に軽くかん水します。</p> <p>芽が出ていない状態で、かん水量が多いと逆効果となり、地温が下がって、出芽のさらなる遅れや、「立ち枯れ病」の原因となります。</p> <p><b>我慢して、太陽を待つしかありません。</b></p>

「芽が出ないから、十分な量をかん水する」は間違いです。  
シルバーポリトウは使用開始4年目から保温性が著しく低くなるので注意が必要です。